

調査の概要

瀬戸市の結果

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の対象 小学校第6学年、中学校第3学年の児童生徒

3. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・主として「知識」に関する問題
- ・主として「活用」に関する問題

(2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

4. 調査方式 悉皆調査

5. 調査日時 令和3年5月27日（木）

教科に関する調査 結果報告

小学校

瀬戸市内小学校の「成果（◎）」と「課題（▲）」

平均正答率（％）	全国	愛知県	瀬戸市
国語	64.7	62.0	◎自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考慮することができている。 ▲目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つけること、要約することに課題がある。
算数	70.2	70.0	◎速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる。 ▲複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。

瀬戸市内中学校の「成果 (◎)」と「課題 (▲)」

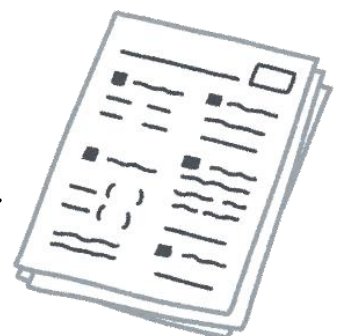
平均正答率 (%)	全国	愛知県	瀬戸市
国語	64.6	64.0	◎登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することができる。 ◎文脈に即して漢字を正しく読むことができる。 ▲文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題がある。
数学	57.2	58.0	◎具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる。 ◎与えられたデータから中央値を求めることができる。 ▲平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することに課題がある。

各教科で課題として挙げた内容と、市内各校での分析結果をふまえ、今後も児童生徒の興味・関心を高めながら、基礎的・基本的能力の確実な定着を目指していきます。



調査結果から

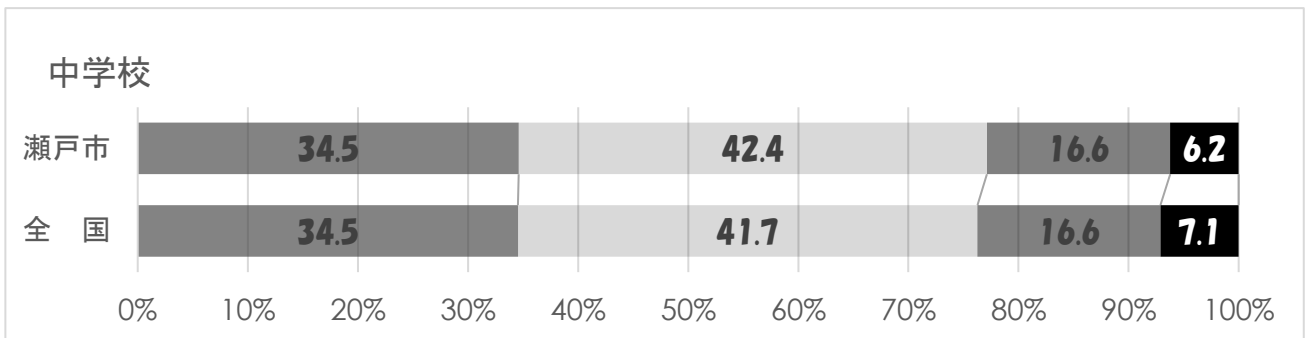
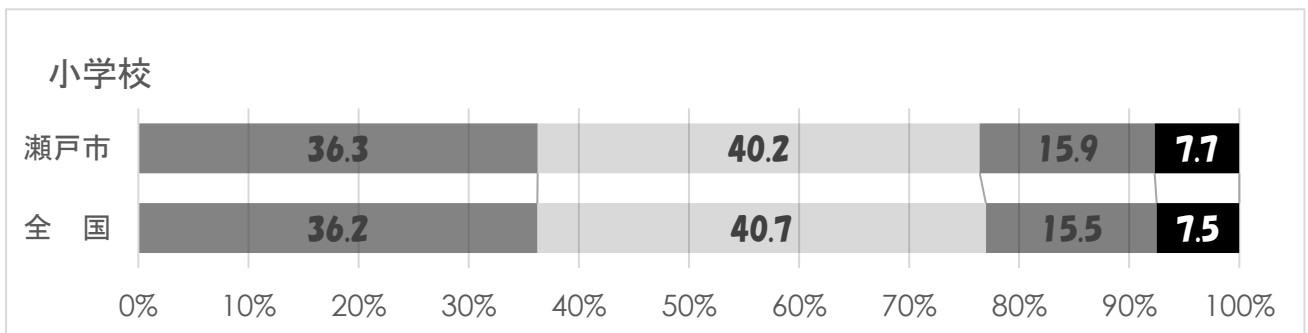
- 自己肯定感を高め、自分の良いところや悪いところを認められるような子どもを育てていきましょう。
- 子どもたちが本にふれたり、本から学ぶ楽しさを知ったりする機会を増やしていきましょう。
- 住んでいる地域や社会のことを考えるようなきっかけをつくっていきましょう。



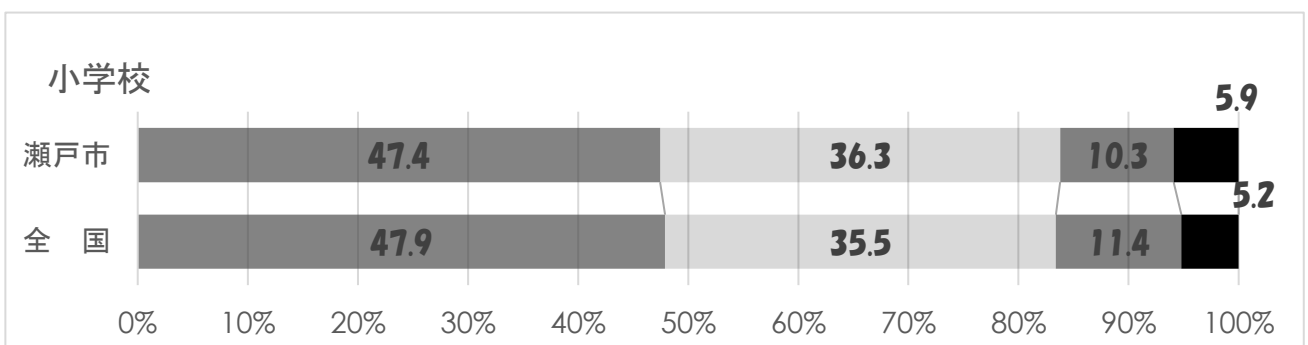
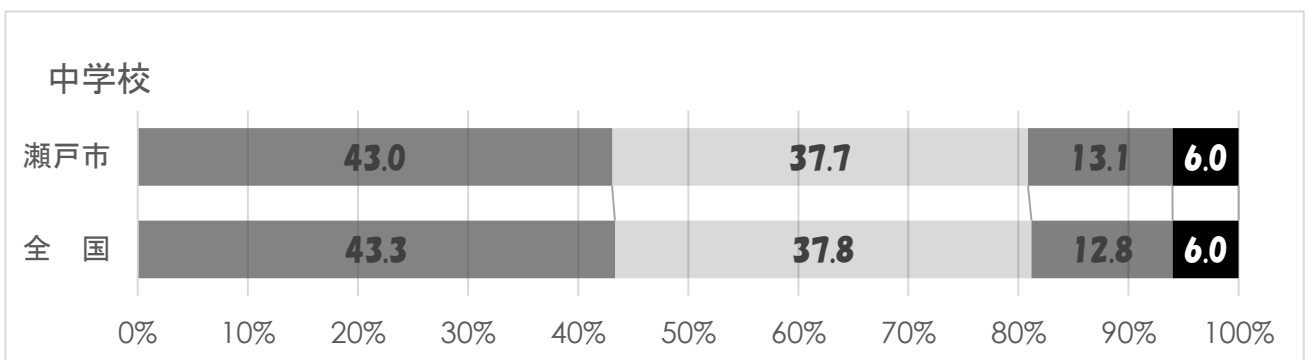
★グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

子供達の意識

◇自分には、よいところがあると思いますか

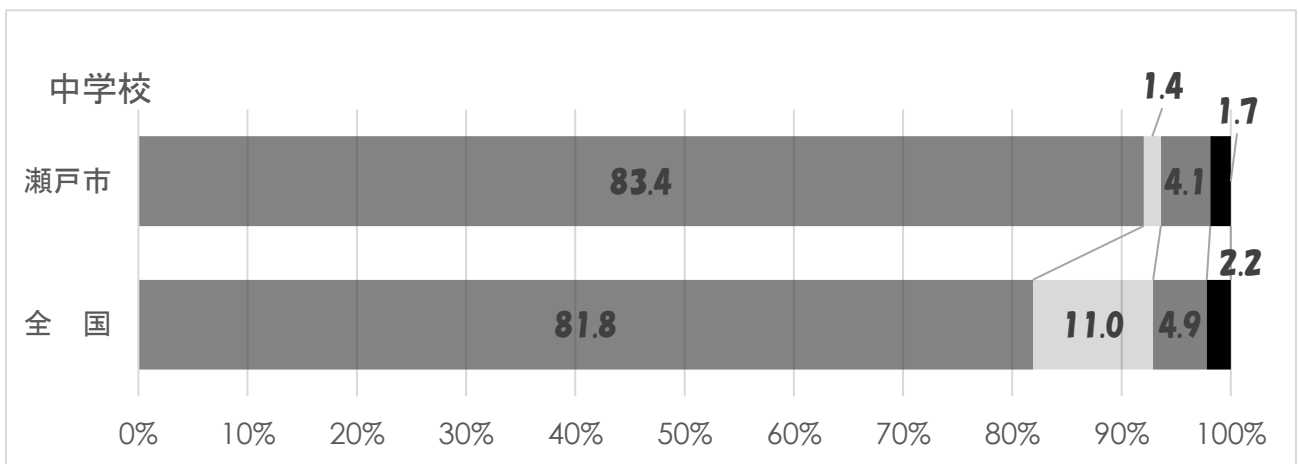
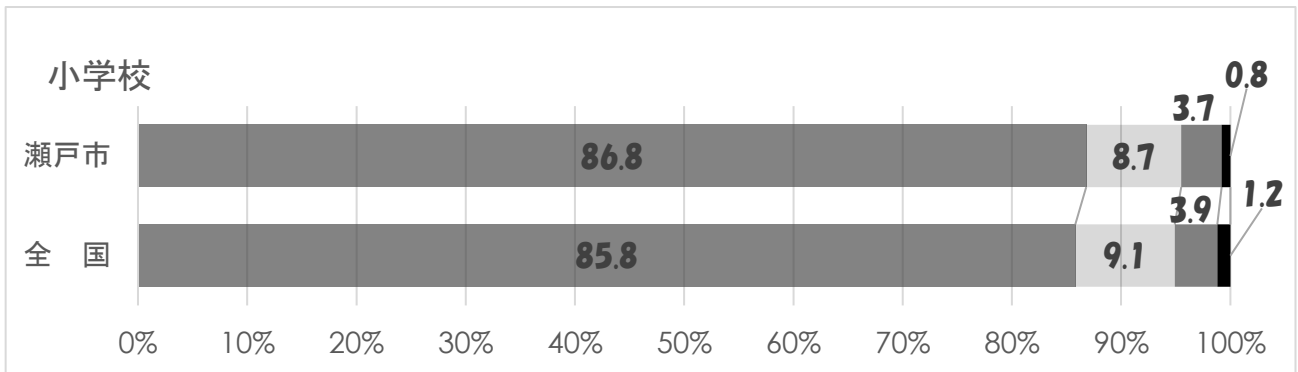


◇学校に行くのは、楽しいと思いますか

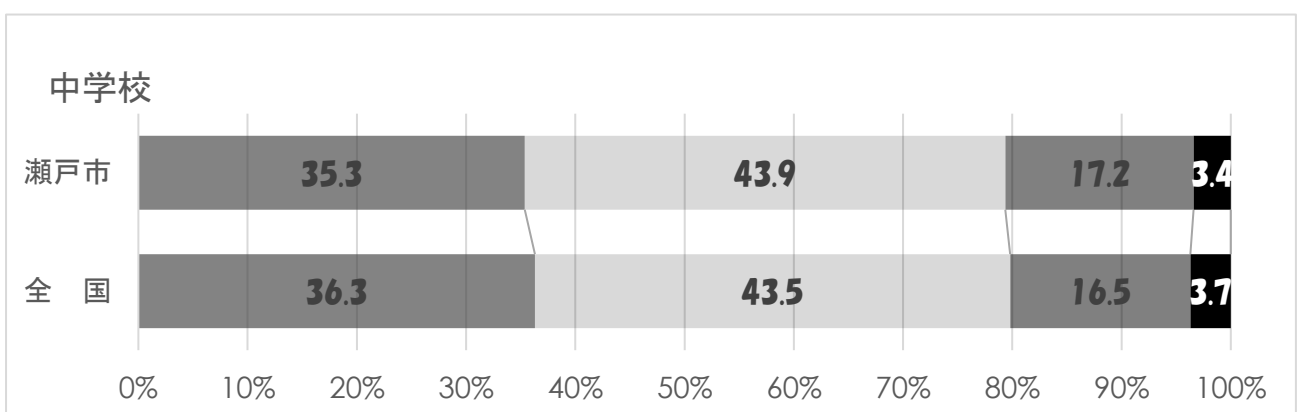
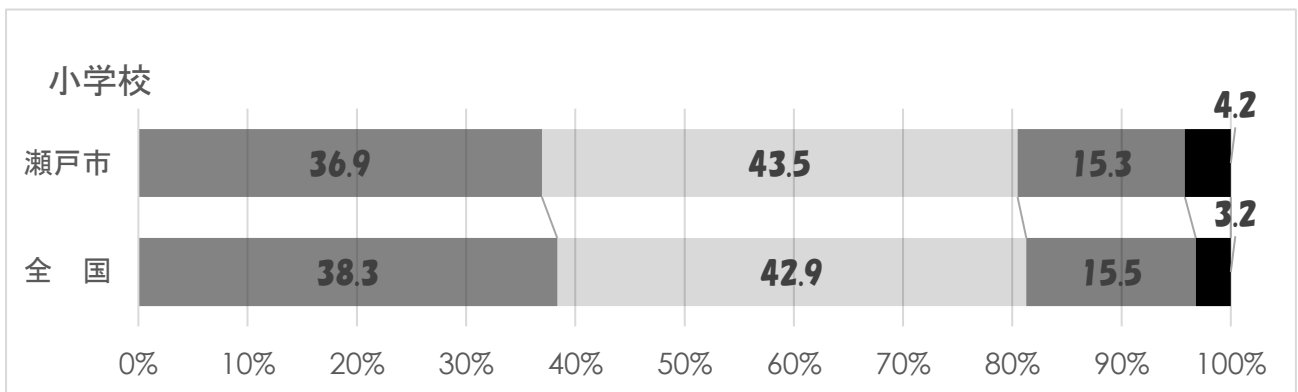


基本的生活習慣

◇朝食を毎日食べていますか

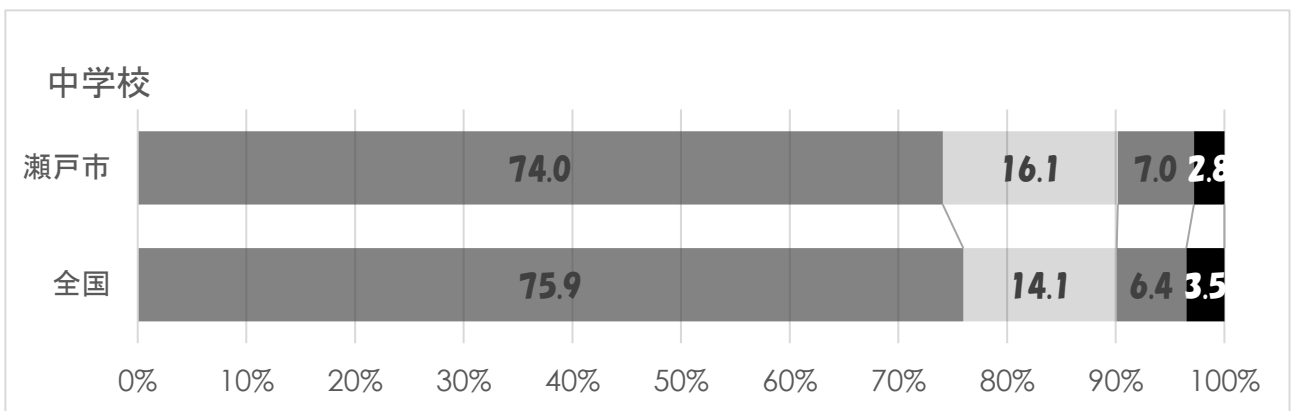
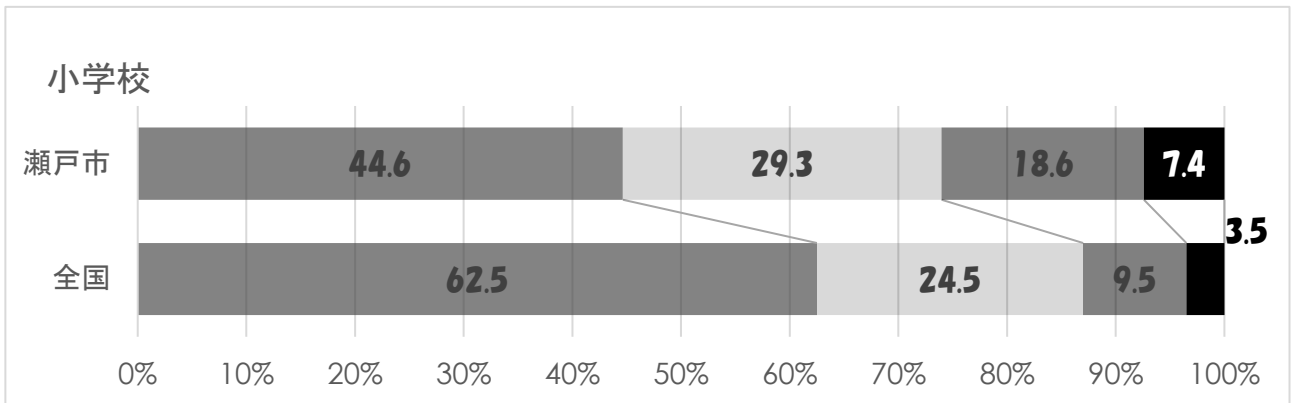


◇毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

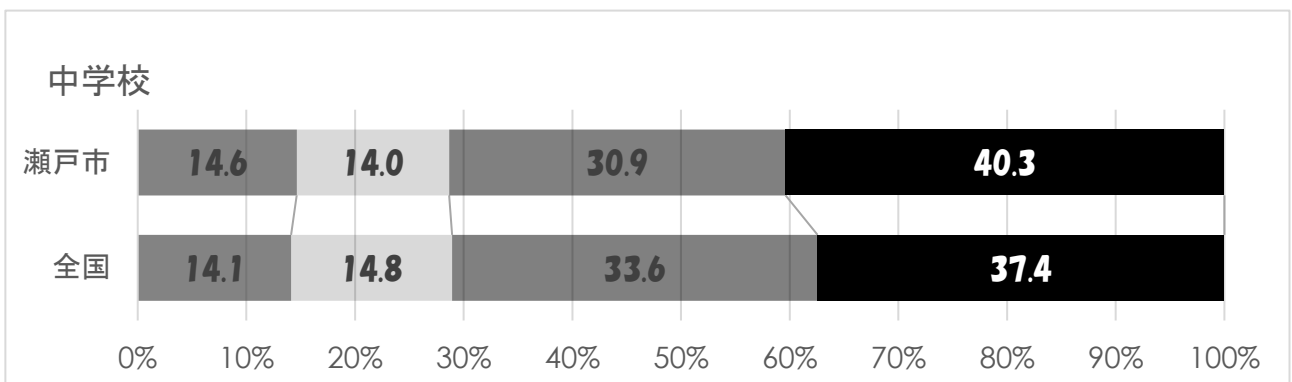
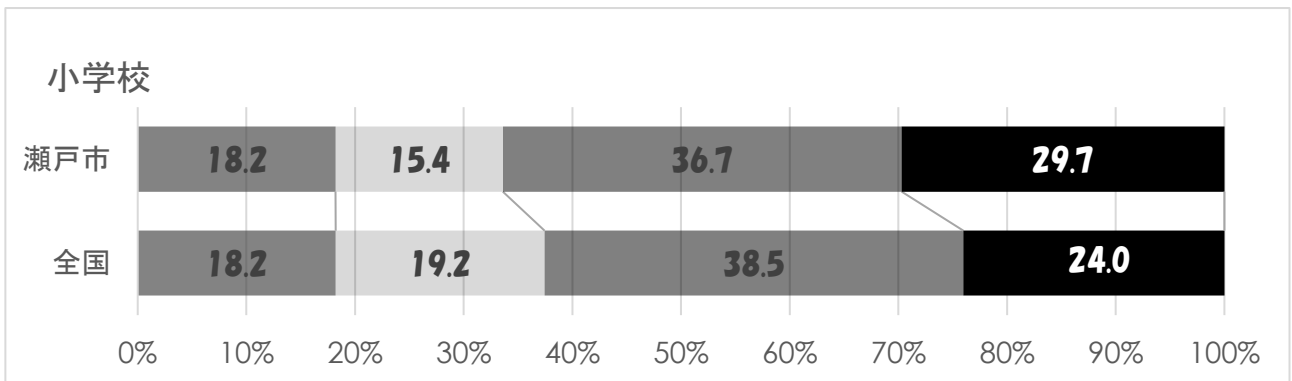


学習習慣

◇家で、学校の予習・復習をしていますか

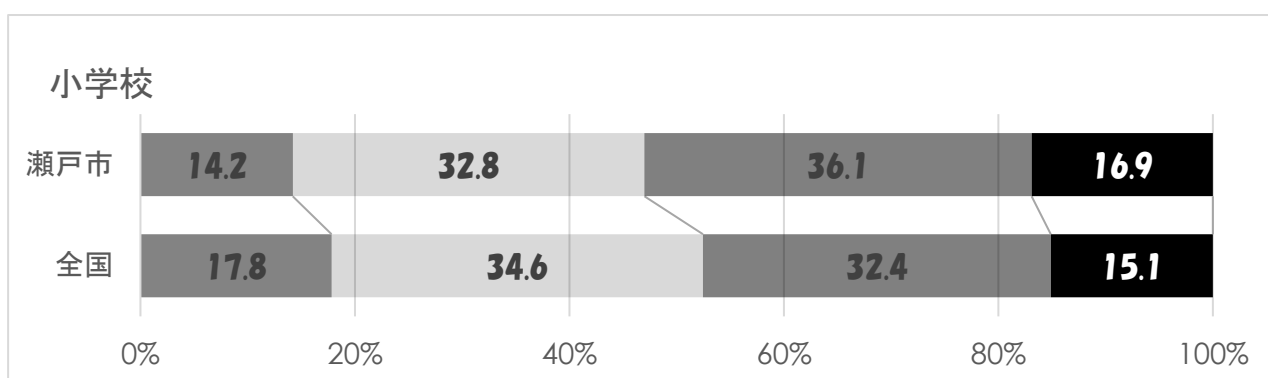
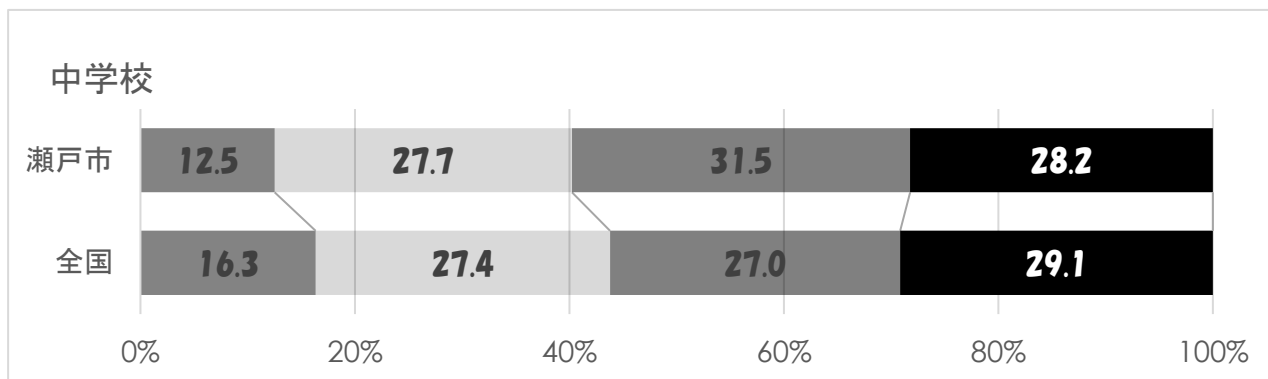


◇家で、読書はしていますか

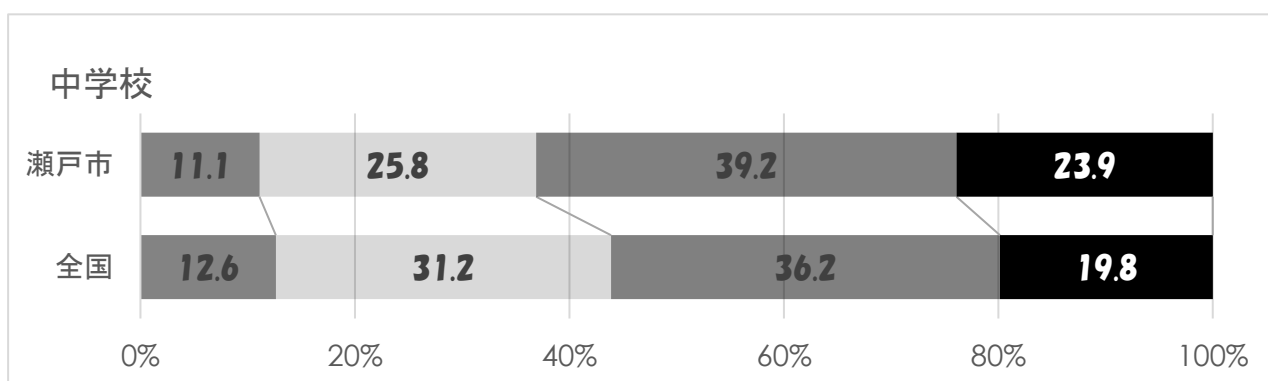
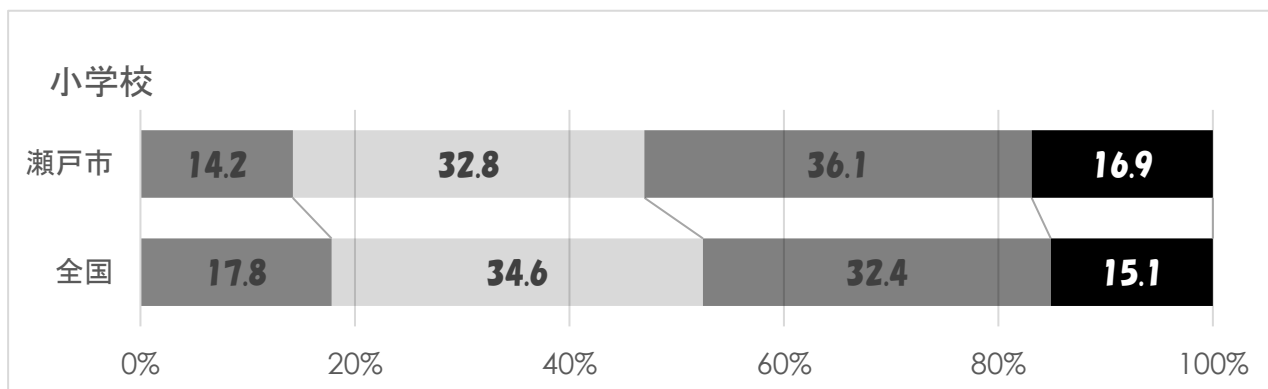


地域や社会との関わり

◇今住んでいる地域の行事に参加していますか



◇地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



【瀬戸市内小中学生の「よさ（◎）」と「課題（▲）」】

※令和2年度は未実施のため、令和元年度並びに全国平均と比較し検証しています。

子どもたちの意識

◎自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合は、令和元年度と比べて、やや低くなっているものの、全国平均を上回っています。

▲大多数の児童生徒が、学校に行くのは楽しいと思っているが、約2割の児童生徒が楽しくないと思っており、不安を抱いて生活していることが心配されています。

基本的な生活習慣

◎朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、令和元年度と比べて、やや低くなっているものの、全国平均を上回っています。

▲毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の割合は、令和元年度と比べて低くなっており、生活習慣の乱れが心配されています。

学習習慣

◎家で、学校の予習・復習をしている児童生徒の割合は、中学生になるにつれて高まっています。

▲家で、読書をしていない児童生徒の割合は、全国平均と比べて高くなっており、読書離れが懸念されています。

地域や社会との関わり

▲地域や社会をよくするために何をすべきかを考える児童生徒の割合は、全国平均よりも低くなっている。これは、コロナ禍による地域との交流の減少が要因と考えられています。

▲今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合は、令和元年度と比べて低くなっています。

児童生徒の笑顔は、「楽しさ」から生まれます。学校でも家庭でも、子ども達がやりたいことと出会える、やりたいことに挑戦できる環境づくりが必要です。そこに、温かい眼差しと言葉かけが加わると、子ども達はさらに輝き出します。そんな環境づくりを進めます。

また、近年、放課後の過ごし方の特徴として、テレビやスマートフォンでゲームをしている児童生徒の割合が全国平均を上回っています。これが就寝時間の乱れの一因とも考えられるため、生活について見つめ直す機会が必要です。

学習面では、仲間と関わり合いながら課題を解決する力「協働型課題解決能力」の育成を進めます。この力があらゆる困難に立ち向かう原動力となると考えます。また、地域や社会への関心を高め、子ども達が積極的に関わり合えるよう、「郷土愛」を醸成し、学校・家庭・地域による「連携強化」を進めます。

